



2015全日本ARDF競技大会

平成27年11月14日・15日 滋賀県野洲市で開催

はじめに

平成27年11月14日・15日の両日、滋賀県野洲市の通称近江富士と呼ばれる三上山周辺と、希望が丘文化公園において、2015全日本ARDF競技大会が開催されました。

日本全国から集まった参加選手は、ARDF競技始めて以来過去最高の183名のエントリーとなりました。また、今年からJARD杯が設定され、無線機器メーカーのアイコム株式会社様からは、安全ピンを使わないゼッケン留めホックをご提供いただきました。

この時期の競技エリア周辺は紅葉真っ盛りでしたが、ほとんどの選手はそれどころではないようでした。

2日間にわたる競技で、初日の3.5MHz帯部門では、時折土砂降りの雨、2日目は晴れたものの地面の落ち葉に足を取られ、一部の選手は転がりながらも大きなケガや事故もなく無事終わり、タイムオーバーによる失格者を含め全員のゴールを確認した時は、スタッフ一同胸をなでおろした大会でした。

場所の選定

関西では過去2回とも兵庫県三木市で開催していたので、今年は別の府県を検討し、公共交通機関、高速

道路の近くなど交通の便の良さ、宿泊施設と駐車場、2日間の競技可能な場所が近くにある事などを条件にすると、今回は滋賀県野洲市がこれらの条件に合致することから決定しました。

心配していた宿泊はJL3BZZ南出滋賀県支部長が、近くの希望が丘ユースホテルと、500m離れている近江富士花緑公園ふるさと館の2カ所を借り切ってくれたことで、宿泊希望者全員の対応が可能となりました。

スタッフ

地元の滋賀県ではARDF競技大会の経験に乏しくスタッフ不足が懸念されましたが、5月にARDF審判員講習会を開催し、9月には予行演習と称して滋賀大会を実施するなどしてスタッフの養成にも注力しました。

さらに、これまでの関西地方大会で経験豊富なスタッフを中心に関西6府県支部が一丸となって運営しました。それでも一部の方に負担が偏りましたが、準備の効率を考えるとある程度はやむを得ない体制となりました。

JA3OIN橋本元京都府支部長は車で人や選手の荷物等を一生懸命に運んでおられました。

また、地元のJE3GZV森井会計は早朝から夜遅くまで選手やスタッフ役員等の、陰でのおもてなしに徹し



▲実行委員により競技大会に準備が進められた。写真はTXのチェックと設営打ち合わせの様子。



▲競技大会参加受付の様子。今回、特に参加選手も多く、受付はてんてこ舞いとなった。



▲希望が丘ユースホステルスポーツ会館(体育館)で開催された開会式の様子

ておられました。

選手の申込

選手の申込が100名を越すころから徐々に心配が大きくなり、最終的に3.5MHz帯部門が143名で144MHz帯部門が183名、2日間の延べ数は327名にもなることが判明。この数はARDF競技始まって以来過去最高であり、嬉しくも多すぎる課題が見え隠れしてきました。

これに役員、審判員を含むスタッフが1日約62名+付添いの先生方で、2日間で延べ120名以上にもなり、選手を含む2日間の延べ参加者数は450名以上にもなりました。しかも、参加選手の約半数80名以上が中・高校生たちで占め、JARLの行事でこれほど若い人達が集まるのは大変喜ばしいことと思います。

しかし、準備から競技までのお茶や弁当の手配と搬送、ゴールしてくる選手の飲み物等も半端ではありませんし、2日間スタートもゴールも時間を要し、各TX担当はそれ以上の長時間、雨の降る寒い山中でじっと隠れているのは大変なことで、いくら考えても選手の数が多すぎる嬉しい悲鳴でした。

開会式

希望が丘ユースホステル前で受付を済ませ、スポーツ会館(体育館)に移動し開会式が始まりました。

JH3HUR松井副総務委員長が司会を務め、11時30分、JA3DBD宮本大会実行委員長の開会宣言の後JA7AIW

山之内大会会長の挨拶に続きJF3KRL菊一審判長による競技説明があり、灘中学の吉川さんと奈良育英高校の高橋さんによる選手宣誓のあとは外で記念の集合写真撮影があり、いよいよ競技が開始されました。

3.5MHz帯部門

朝からあいにくの雨で時折土砂降りとなりました。しかも、競技区域は通称近江富士と呼ばれる三上山の周囲で、かなり厳しい探索になることが初めから予想されていました。審判長も事前に何度もこのトレインに足を踏み入れコースと地形、TXの設置場所、電波の飛び具合などをチェックしていました。

09時30分にスタートの予定で選手が並んでいましたが突然ストップになりました。理由は「MO4がM0の送信のみになった」とか「MOが継続したまま……」等々のTX異常の情報が飛び交いトラブルが発生したように思えたが、原因は誰かが受信確認用の小型MO発信器のスイッチをONにしたまま切り忘れていたようです。

一瞬ヒヤリとしましたが、これでスタートが10分遅れとなり始まりました。しかし、143名もの選手のスタートが20組、12時40分にスタートが始まって全選手のスタートが終わるのが14時15分になります。最終スタートの時間になるとゴールする先発選手も出てきます。スタートもゴールもTX各担当も、これまで経験したことのない長時間になりました。

3.5MHz帯の電波は送電線とか鉄塔がない限り素直な伝わり方なので、地図に自分の位置が分かれば探索は



▲あいにくの雨天の中開催された3.5MHz競技。左はスタート、右はゴールのひとこま



▲2日目、144MHz帯競技スタート直後の選手のみなさん

容易ですが、各選手とも山が邪魔して難しい探索のようで、タイムオーバーの選手も多数いたようです。中には30分以上経過するもゴールしない選手にはヒヤヒヤしましたが、無事全員のゴールを確認したときはホッとしました。

たぶん難しさの要因はTXの設置場所と共に道の選択にあったと思われます。

ゴール付近では雨の中で傘をさしながらJA7AIW山之内会長が長時間選手に声援を送っておられました。この日は天候も悪く参加選手が多いので、単なるタイムオーバーなら良いのですが制限時間を大きくオーバーしてもゴールできない選手が出ることを心配していました。特に近江富士と呼ばれる三上山の中は昼間でも少し暗く、日が落ちればすぐ暗闇になるので、スタッフで捜索隊を結成すべく、ヘッドライト等の準備もしていました。

なお、この日の競技終了が遅くなるのを見越して、表彰式は予定どおり明日に延期しました。

144MHz帯部門

朝、スタートするころには雨も止み少し青空も見えてきました。受信機の預かりは、選手の数が多くアンテナも大きいので適当な場所がないため、選手の自己管理としました。

TXは何れもメイン道路からは離れた所に設置されており、前日の雨で足元が滑りやすくなった落葉樹の落ち葉を踏みながら林の中に入って行かねばなりません。

獣道もあり、道の一つ間違えると諦めて次に進むかUターンする必要があるし、時間ロスが発生するなど、非常に難関のコースでした。

なお、この部門の地図作成はJP3EVM植木さんにご協力をいただきました。

最後の組がスタートし終わったとき、スタートチャイムを開発した一人としては、2日間最後まで設計どおり完璧に動作したことに安堵しましたが、今後は装置の防水対策を考えたいと思います。

この日もタイムオーバーの選手はいましたが、無事全員のゴールを確認して審判員と運営側の全員がホッとしました。

しかし、競技終了後一人の選手の目から涙が溢れ出ていました。他の方に理由を聞くが残念ながらタイムオーバーで失格になったそうです。たぶん頑張った自分に悔しかったのだと思います。この経験は大きな財産となったに違いないし、次回大会にぜひリベンジしてほしいものです。

閉会・表彰式

初日の3.5MHz帯部門と、2日目の144MHz帯部門のクラス毎の大会表彰に地方本部対抗、府県支部対抗等の表彰はJA7AIW山之内大会会長から賞状とメダルが授与され、JAIA杯はJAIA会長代行としてJG2GFX種村ARDF委員長が賞状とトロフィーの授与、そして本年より新たに設定された中学校対抗、高等学校対抗の各賞のJARD杯は来賓のJA1HQG有坂JARD会長か



▲TXを探し求めて、晩秋のフィールドを駆け巡る



▲144MHz帯競技結果発表



▲表彰式のひとこま

ら賞状とトロフィーの授与、併催された関西地方大会はJA3DBD宮本関西地方本部長から賞状と副賞が関西の入賞選手に授与されました。

これだけ表彰が多くなると、ARDF SIシステムを使用しパソコンで処理して表彰状を印刷する一連の作業の効率が良いといえども、あまりにも数が多すぎて、かなりの時間を要しました。

また、すべての入賞者一人ずつ表彰状を渡してはさらに時間を要するため、今回は代表の1位のみとしました。

しかし、2位以下の方には、賞状とメダルをお渡しする時に混乱し、後日郵送となったことをお詫びいたします。

救護班の治療内容

JF3SKC玉井裁定長にご紹介いただいた地元の、こじま整骨院小島先生の治療内容の概要として、初日の14日には足関節捻挫(第1度)2名、エコーによる診察と治療(湿布)1名はバンテージによる保護実施。拇指打撲エコー検査1名。両大腿部の痙攣治療1名。

次の15日は前日足捻挫者の状態確認とテーピングこの患者の試合出場後の状態確認(エコー検査)とテーピング。腿部および頸骨部打撲者指導等々をされました。

これだけ参加選手が多くなれば、不慮のケガの発生や治療が必要になるのは当然かもしれませんが、小島先生の治療には大変助かりました。

元気をもらった

1989年JARL主催の第1回FOXテーリング全国競技大会(最初の名称)が西武園とその周辺で開催されましたが、当時の参加選手が今回も選手として元気に走っておられました。

西武園の大会を知る人も少なくなったこの26年間、多少お歳を召された今も現役選手として、また運営側として参加されている姿に元気をいただきました。

ちなみに、当時参加されて今回選手データで確認できた方々を一部ご紹介します(カッコ内は今回参加の肩書です)。

JA1HQG有坂裁定委員長(JARD会長)、JA2IJJ岩崎選手、JI2JAG水谷選手、JA3LBS永田選手、JH3HUR松井選手(副総務委員長)、JP3EVM植木選手(地図作成協力ほか)、JA9AMR吉室選手、JA3NDM藤原運営委員(副実行委員長)他。

26年前は男女を区別するだけで強い者が勝ち弱い者は負ける。それで良いと思った時もありました。しかもスポーツなのに国体にもオリンピックにもARDFの競技種目はありませんし、これからも難しいと思われるが、年齢によるクラス分けが細かくされていることで運営側は大変ですが、若い時は必至で1位を目指し、高齢になるにつれて体調とコースに気を付けながら、自分で目標を定めて楽しむことができる素晴らしい競技であることを改めて認識しました。

今回の参加選手の方が、次の26年後も元気に参加されていることを祈ります。

今後の課題

今回の大会の運営を終えて、実行委員会として気づいた今後検討してみた方がよさそうな点を、思いつくまま拾ってみますと次のとおりです。

1. 従前のように「地方ARDF競技大会」を参加選手選抜戦と位置づけた、選抜選手による全国大会としての「全日本ARDF競技大会」の位置付け。
2. JARLのARDF競技大会運営用のO-cadソフト(地図作成ソフト)の購入と、競技用マップ制作の操作に関するノウハウの習得。
3. 競技参加用受信機、新規のTX送信機の製作、スタートチャイム、日本版ARDF SIシステム等の機器などの新規開発。
4. 選手の宿泊については直接競技とは関係ないので、すべて選手自身に任せる形での運営方法。
5. もっとシンプルな運営方法の検討。
6. 提供、後援などのスポンサー獲得にさらに注力すること。
7. 支部長、本部長、理事等JARL役員は、全員審判員資格を得るようにできないものか。

レポート：2015全日本ARDF競技大会
副実行委員長 JA3NDM 藤原 美和